

シリーズ  
【社会学の思想】

編集委員

長谷川公一  
藤田 弘夫  
吉原 直樹

La théorie sociale de la régulation

by Alain Lipietz

Copyright©Alain Lipietz 2002

Japanese translation published by arrangement with  
Aoki Shoten Publishers  
(Japan) Ltd.

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらかじめ小社あて許諾を求めて下さい。

訳者はしがき

本書は、「矛盾的性格を有する社会諸関係が規則性を確保するのはいかにしてか、規則性に危機が生じるのはなぜか、危機からどのような規則性が生じるか」というレギュラシオン（調整と危機）の問いを、長期経済不況、雇用と社会統合の危機、地球環境危機といった現実の社会関係の危機に内在して研究してきたアラン・リピエツの多産な著述活動の中から、レギュラシオン・アプローチの方法と諸概念に関する論文、および政治的エコロジーに関する論文を選び訳出した論文集である。本書の構成と各章の論点は「訳者解説」に書いたとおりである。この論文集の企画と編集は一九九四年の夏に私と井上泰夫氏（名古屋市立大学）によって始められ、その後なんとか編集案を練り直す作業を繰返した後、一九九八年の九月に来日したりリピエツと打ち合わせをして最終的に確定した。本書のタイトルも、リピエツのアドバイスに従って、現行のように「レギュラシオンの社会理論」に落ち着いた。

方法と諸概念に関する論文（本書の第Ⅰ部と第Ⅱ部）では、マルクスの唯物史観やグラムシのヘゲモニー論、アルチュセールの重層的決定論やプーランツァスの国家論をレギュラシオン理論の展開にどこまで生かすことができるかが検討され、資本主義の構造的危機と変容をレギュラシオン・アプローチから説明する「経済社会的発展モデル」が提起される。政治的エコロジーに関する論文（本書の第Ⅲ部）では、エコロジー危機の歴史と現在の地球環境危機（地球温暖化問題）が検討され、地球環境の調整様式の基礎にある「世界的妥協」に到達するには、従来の労使妥協の基礎にあるヘゲモニー（リーダーシップの責任）だけでは不十分であり、ヘゲモニーと「深層の責任」（将来世代

に対する責任)の結合が必要である、という議論が展開される。その際リビエツは、深層の責任という責任倫理にもとづく妥協をハーバースの討議の原理(コミュニケーション的理性)を援用して説明するが、マルクスIIグラムシ的な社会理論とハーバース的な社会理論との関連についてはまったく言及していない。リビエツは、エコロジ「危機とその調整の問題」に取組むことを通じて、矛盾と闘争を強調するマルクス理論から意志疎通と学習を強調するハーバース理論に拠り所を変えつつあるかのようなのである。リビエツによる「レギュラシオンの社会理論」の展開は、マルクスIIグラムシ的な調整と危機の理論をハーバース的な意志疎通と学習の理論にいかにつなげるか、という理論的課題を提起しているのである。

次に、本書に収録した論文(掲載順)の初出を示しておくことにする。

- 第1章 Reflexions autour d'une fable : pour un statut marxiste des concepts de régulation et d'accumulation, Couverture Orange CEPREMAP, no. 8530, 1985.
- 第2章 De l'althusserisme à la "théorie de la régulation", CEPREMAP, no. 8920, 1988.
- 第3章 De l'approche de la régulation à l'écologie politique : une mise en perspective historique, Interview de G. Coco, F. Sebai, C. Vercellone, Futur antérieur, L'Harmattan, 1994.
- 第4章 Trois crises : Métamorphoses du capitalisme et mouvement ouvrier, CEPREMAP, no. 8528, 1985.
- 第5章 Aspects séculaires et conjoncturels de l'intervention économique de l'Etat, CEPREMAP, no. 8621, 1986.
- 第6章 Le national et le régional : quelle autonomie face à la crise capitaliste mondiale?, intervention au colloque Spatial Structures and Social Process, Lesbos, Août. Couverture Orange CEPREMAP, no. 8521, 1985.

第7章 Le développement soutenable : Histoire et défis, mimeo, 1997.

第8章 L'écologie politique et l'avenir du marxisme, Congrès Marx International, Université de Paris-X Sorbonne, 27 Septembre 1995. Publié *Actuel Marx*, no. 1995.

第9章 Ecologie politique régulationniste ou économie de l'environnement?, Boyer R. et Saillard Y. (éds) *Théorie de la régulation*, La Découverte, 1995.

第10章 La notion de responsabilité et les relations internationales : L'exemple de l'effet de serre, Leçon à la Faculté de Droit et de Théologie de Bruxelles, 9 Février, 1994. publié dans *Cahiers de l'Ecole des Sciences Philosophiques et Religieuses*, no. 16, 1994.

第11章 Climat : l'autre mondialisation, *Liberation Quotidien*, le mercredi 8 août 2001.

訳文の作成にあたっては、若森文子が全体を訳出して本書の最初の訳稿を作成し、私(若森章孝)が訳文全体を最終的にチェックして仕上げた。したがって、翻訳上の全責任は私にあるが、本書は共同作業の結果である。邦訳に際しては最善を尽くしたつもりであるが、訳者の不案内による思わぬ誤謬があるかもしれない。率直なご批判をいただければ幸いである。

なお、訳書中の符号は以下のとおりである。「」は原文の《》、( )は原文のまま、「」は訳者による補足または訳者注、傍点は原文の強調のためのイタリック。また、引用文献の訳出にあたっては邦訳の頁数を示しておいたが、訳文は必ずしも邦訳文献に従っていない。

最後に、本書の編集、訳出、出版の過程でお世話になった方々、とりわけ、共同編集を担当されながら名前を掲げ

ることを固辞された井上泰夫氏、ロシア革命やドイツ革命の思想家について教えてくださった太田仁樹氏(岡山大学)、編集から刊行までの長期にわたって援助を惜しまれなかった青木書店編集部(原嶋正司氏(現在、編集企画室DWE LL))に厚くお礼申し上げる次第である。

二〇〇二年八月一五日

若森 章孝

## 目次

訳者はしがき 3

### 第1部 レギュラシオン理論とは何か

第1章 ある寓話をめぐる考察——調整と蓄積の概念のマルクス主義的規定……………13

1 悲惨な物語 13

2 社会科学は社会諸関係についての科学である 18

3 再生産からレギュラシオンへ 21

4 危機と社会諸関係の安定化——社会的鑄型 27

5 商品関係 31

6 賃労働関係 37

7 蓄積の成功はいかにして可能か? 41

8 資本主義的レギュラシオン 44

第2章 アルチュセール主義から「レギュラシオン理論」へ……………49

1 古典的アルチュセール主義の諸命題 53

2 アルチュセール主義の貧困 84

3 レギュラシオン学派による「止揚」 93

第3章 レギュレーション・アプローチから政治的エコロジーへ……………109

- レギュレーション学派の形成をめぐる政治状況と理論的研究のプログラム
- 1 一九八一年の社会主義者の勝利から一九八三年の緊縮政策への転換 113
- 2 レギュレーション派の核心 116
- 3 レギュレーション派の中核の分裂とコンヴァンション理論 125
- 4 イタリアの「労働者主義」アプローチとレギュレーション派 126
- 5 コンヴァンション理論 132
- 6 エコロジー 137

第II部 危機と大転換の社会理論

第4章 三つの大危機——資本主義の変容と労働運動……………145

- 1 新しいエルサレム対バビロン 150
- 2 資本主義の変容——段階、循環、体制 160
- 3 システム内の反システム勢力としての労働運動 166
- 4 こんにちの危機と参加の問題 181

第5章 国家の経済的介入の長期的性格と局面状況的性格……………189

- 1 マルクス主義の伝統における国家についての二つの理論 190
- 2 国家の経済的役割——長期的性格 197
- 3 限定国家から挿入国家へ 199
- 4 発展モデルと国家の介入 202

結論として——挿入国家の危機 209

第6章 国民的次元と地域的次元は資本主義の世界的危機に対してどれだけ自律的か?……………213

- 1 社会諸関係と空間…いくつかの定義 215
- 2 フォーダイズムの危機 227
- 3 危機における空間の自律性 234
- 結論に代えて 241

第III部 政治的エコロジー

第7章 永続可能な発展——歴史と挑戦……………249

- 1 永続可能な発展のエコロジーについて 250
- 2 エコロジー危機の歴史 255
- 3 現代のエコロジー危機 261
- 4 政治的エコロジーは二一世紀の「進歩主義」か? 265

第8章 政治的エコロジーとマルクス主義……………271

- 1 マルクス主義との親近性 272
- 2 マルクス主義を拡大するのか、それとも再利用するのか? 276
- 3 政治的エコロジーとマルクス主義との根本的な違い 277
- 4 改良主義的な道 281
- 5 現代のエコロジー危機の経済的分析 284
- 6 「プロレタリア革命」(あるいは控えめに、社会変革における賃労働者の中心的役割)について 286
- 7 共産主義の将来 289

第9章 レギュラシオニストの政治的エコロジーか、環境経済学か?.....295

1 緑のエコロジストのパラドクス 296

2 空間利用のレギュラシオン 298

3 新しい展開 299

第10章 責任の概念と国際関係...地球温暖化を例にとって.....303

1 「責任がある」とはどういうことか 304

2 地球温暖化の場合 309

3 リオの戦闘 313

4 討議の中断 322

第11章 もう一つの世界化...気候変動枠組み条約.....327

解説 若森章孝 333

参考文献 巻末 9

索引 巻末 1